

サイラムザ+アブラキサン療法を受けられる方へ

科 ID: 様



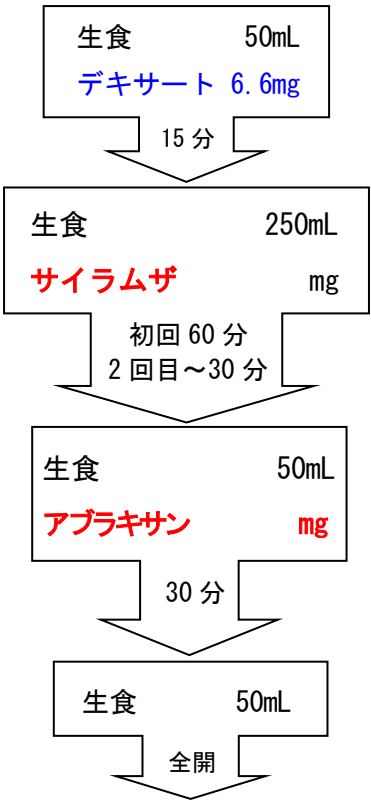
【投与スケジュール】

	1 日目	2～7 日	8 日目	9～14 日	15 日目	16～21 日	22 日目	23～28 日
サイラムザ	○				○			
アブラキサン	○		○		○			

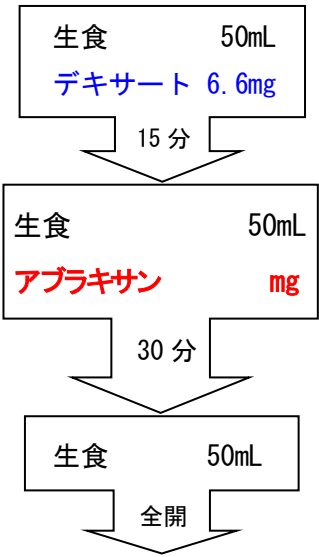
☆4 週間毎に繰り返し行います。
☆検査の結果で投与スケジュールや投与量が変更になる場合があります。

【点滴内

《1 日目・15 日目》



《8 日目》



デキサート：吐き気やアレルギー症状を抑える薬です。

サイラムザ
アブラキサン } : がん細胞の増殖を抑える薬です。

【主な副作用と対策】

アナフィラキシー様症状：お薬を投与することで、アレルギーに似た症状が発現することがあります。息がしにくい、胸が締め付けられる、といった症状がある場合にはすぐに知らせてください。

インフュージョン・リアクション：サイラムザの点滴を始めてから、発熱・悪寒・吐き気・頭痛・疼痛・痒み・発疹・咳・胸の重苦しさなどのアレルギーに似た症状が起こることがあります。違和感があるようでしたら知らせてください。

血管外漏出：針の刺入部の皮膚が赤くなる・腫れる・痛い・熱っぽい・かゆみが出るなどの症状が現れる場合があります。異常を感じたらすぐに知らせてください。

白血球減少：投与後7～14日頃に最も減少するといわれています。
白血球が少なくなると、病原菌に対する体の抵抗力が弱くなり、
風邪などの感染症を起こしやすくなりますので、
うがい・手洗い・マスクといった感染予防を心がけましょう。



赤血球減少：血液の赤い成分が減少することで、めまいやふらつき、疲れやすくなるといった副作用が起こることがあります。十分な休息をとりましょう。

血小板減少：投与後7～21日頃に最も減少するといわれています。原因不明のあざ・鼻血・歯茎からの出血・頭痛などが起こることがあります。出血しやすくなりますので、怪我や転倒には注意してください。

脱毛：投与後14～21日経つと抜け始めます。
治療終了後6ヶ月ほどで生えそろってきます。



食欲不振・悪心・嘔吐：投与後～2-3日ほど現れることがあります。あらかじめ吐き気止めを投与していますが、他の薬もありますので辛い時は申し出てください。また食事にはおいの少ないもの・冷たいもの・食べられるものを少しずつ摂取するようにしましょう。

便秘：水分を摂取したり、お腹のマッサージをしましょう。下剤や便を軟らかくする薬も使います。

下痢：下痢をしている間は脱水にならないように水分を摂取しましょう。

末梢神経障害：手足がしびれたり、痛みがでることがあります。
ボタンがかけにくい・字が書きにくいといった症状が出てくるようでしたらお知らせください。



筋肉痛・関節痛：投与2～3日後に肩や背中、腰、腕などの筋肉が痛くなったり、関節が痛くなることがあります。一過性のものですが、辛いときには痛み止めを使いますので相談してください。

浮腫：手足や顔がむくむことがあります。体重の変化に注意しましょう。

発疹：皮膚が赤くなったり、かゆみが出ることがあります。ひどい場合には知らせてください。
塗り薬が処方されている場合は、指示通り使用してください。



口内炎：食後に歯磨きをするなど、口の中は清潔に保っておきましょう。

味覚障害：食べ物の味が変わって感じる場合があります。治療が終了すれば徐々に治ります。

色素沈着・爪の変形：皮膚や爪の色が着色したり、爪が変形してしまうことがあります。
長い時間直射日光にあたらないようにしましょう。
治療が終了すれば徐々に元に戻ります。

腸管穿孔：稀ですが腸に穴があいてしまうことがあります。今までに経験したことのないようなお腹の痛みがある場合には、我慢せず、病院へ連絡してください。

創傷治癒遅延：お薬の影響で傷が治りにくくなっていますので、怪我には十分注意しましょう。

血栓症：血栓ができやすくなっています。足がむくんだり、痛くなったり、突然息切れがするようなことがありましたら知らせてください。

粘膜からの出血：血が止まりにくくなっています。怪我には十分注意しましょう。圧迫止血などをして血が止まらない場合には連絡してください。

高血圧：血圧が高くなる場合があります。もともと血圧を下げる薬を飲んでいる方は特に注意してください。
自宅での血圧測定をお勧めします。



たんぱく尿：おしっこにたんぱくが混じることがあります。

可逆性後白質脳症症候群：稀ですが可逆性後白質脳症症候群(脳のむくみ)を生じることがあります。
頭痛・けいれん・意識がもうろうとする、視力障害などが見られる場合にはお知らせください

黄斑浮腫：視力の低下やものがゆがんで見えるといった症状があらわれることがあります。
このような症状が出てくるようでしたらお知らせください。

神経麻痺：稀ですが、顔面神経麻痺や声帯麻痺といった麻痺があらわれることがあります。
閉眼不能、眼瞼下垂、口角下垂、流涙、よだれなどの症状が出てくるようでしたらお知らせください。

腎・肝機能障害：薬の影響で腎臓や肝臓に影響が出る場合があります。

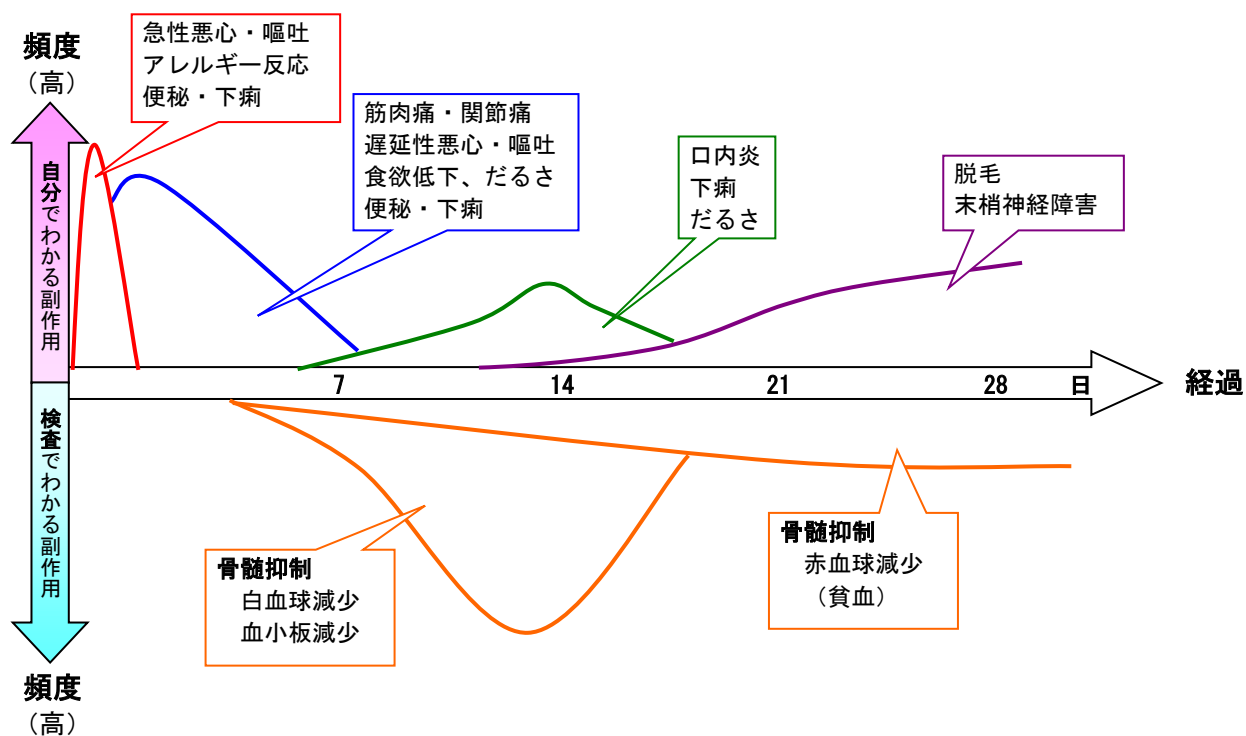


心障害：薬の影響で心臓に負担がかかる場合があります。

間質性肺炎：非常にまれですが、薬の影響で肺炎が起こることがあります。
咳・発熱・息切れといった症状が続くようでしたらお知らせください。



主な副作用の発現時期と程度のイメージ



【日常生活で注意していただきたいこと】

- ① 抗がん薬は投与後しばらくの間、尿や便に残ります。抗がん薬投与後2日間(48時間)は、トイレのふたを閉めて水を2回流しましょう。男性の方は尿の飛び散りを防ぐために座って排尿しましょう。
- ② ご家族が吐物や排泄物を処理する場合には必ず手袋をしましょう。
汚染したゴミはビニール袋に入れて口元をしっかりと閉じてから廃棄してください。



副作用の全てが現れるわけではありません。

また、これら以外の副作用が現れる場合もあります。

気になる症状がありましたら必ず医師・薬剤師・看護師にご相談ください。

この説明書はかかりつけ医やかかりつけ薬局薬剤師にもお見せください。



お薬に関する相談先

北信総合病院 (代表)0269-22-2151
薬剤部 医薬品情報管理室 内線 2530

